

まさかまさかのインナートリップ

(2023/4/28)

L : I崎、D山、H口

文句のつけようのないお天気だった。戸倉から鳩待峠までの冬季閉鎖が解除されてこの時期限定で楽しめる至仏山の山スキー。I崎さん、D山さんは何度も来たことがあるそうだが、僕にとっては初めてで何とも楽しみである。

既に鳩待峠の駐車場は満車という表示が出され、戸倉の駐車場も平日でありながらかなりの台数が停められている。さすが人気の山だ。

荷物を下ろして準備を整え、最後にスキー靴を履こうとしたその時である。「???！」ブーツバッグから取り出したスキー靴にインナーが付いていなかった。先日外したまま家に置き忘れてしまったようだ。

それを伝えると二人とも目が点になった。試しにインナー無しで履いてみたがブカブカで使えない。こりゃ駄目だ。もはやお手上げで、僕はここに残って二人で行ってもらうように伝えた。

しかし二人は何とかなるだろうと動いてくれた。バス乗り場で聞いてもらったところ丸沼まで行けばこの時期でもまだスキーレンタルをやっているという。

「さすがに山スキーのレンタルは無いだろうから板担いで上がるしかないけどな。」

それでも至仏山を滑れば御の字だ。30分以上かかる道を丸沼まで走ってくれた。靴と板を借りるつもりだったが、待てよ、靴だけ借りて中のインナーを入れ替えれば自分の靴と板が使えるんじゃないか。うまく合えばいいのだけれど。

丸沼高原のレンタルショップに行き訳を話すとインナーだけ貸してくれた。しかもインナーレンタル特別料金まで設定してくれて。これで自分の靴と板で滑れる。

戸倉へ戻る道すがら

「けどさあ、今まで靴を忘れたって人は居たけどさあ、インナーを忘れたってのは聞いたことがないわ。今度から計画書の持ち物の所に『板、靴、インナー』って書いておかなきゃいけないな。わっはっはっ…。」

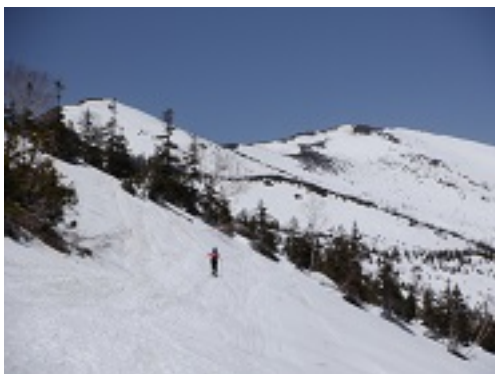
時間は9時半近くになっていた。

「そうだ、こんな時間だと朝一で上っってもう帰るっつのも居るかもしれないぞ。ダメもとで鳩待峠まで行ってみるか」とI崎さんが賭けに出た。

鳩待峠の手前で赤い軽自動車とすれ違った。むっ、もしや。駐車場に着くとその分だけ空いていて停めることができた。さすがI崎さん、転んでも只では起きない人、否、転ばせても只では起きない人である。ちなみに僕らのすぐ後にも1台来たが満車で断られ戻って行った。

駐車場から鳩待山荘の前までは雪は無く地面が乾いていた。雪は登山口の所から。10:10、板を履き歩き出す。途中で毎年来ているという人と話しをしたらこの時期こんなに笹が出てるのは今まで見たことが無いそうだ。今年はどこも雪が少ない。最近の記録でも下では沢が割れていて渡渉に苦労している。

至仏山を左から回り込むように上がって行く。傾斜は緩く歩きやすい。木々の途切れた所から小至仏山をトラバースしていく集団が見えた。



次はオヤマ沢の渡渉だ。1, 505m辺りでまた対岸を見ながら進んだ。対岸に足跡を見つけたが渡渉点がわからない。あそこかなという所があったが雪解けが進んで渡れそうにない。別の場所を探して対岸へ渡った。

板を持ったままツボ足で10mほど上ったが、その先も上りが続くので急斜面が切れた所からシールを付けて上ることにした。

沢から120m上った所で登山道に出た。

「シール外しますか？」

「いや、もうすぐそこだからこのまま行こう。」

確かにすぐ先に駐車場が見えてきた。

15:00、鳩待山荘に到着。駐車場まで戻ってスキー靴を脱いでいると

「Dちゃん、俺らHx2に感謝しなくちゃいけないよな。Hx2のおかげで鳩待峠に車止められたから往復のバス代で合計6千円も安くなったんだからさあ。」

「そうですねえ」とD山さんも調子を合わすが、僕の方は小さくなるばかりだ。

インナーを返しにまた丸沼高原へ行ってもらったので、帰りの道すがら白根温泉・加羅倉館に立ち寄った。ちょっと湯は熱いが源泉かけ流しのたたずまいのいい温泉だ。

「なあ、2時間ちょっとのお手軽でこれだけ楽しめるんだからやっぱこの時期至仏は外せないよな。」

今回は初めてであったがぜひまた来年も来てみたい。来年はどうか沢が埋まるほどの雪がありますように。



(H口記)